

トムトム通信

第 26号 2011年3月発行



理事退任にあたり

うえすぎ けいこ
上杉 桂子

この度、12年間にわたり携わらせていただいたトムトムの運営から退くことになりました。伊藤理事長、職員、そして多くの関係者の皆様には本当にお世話になりました。心より御礼申し上げます。

思い起こせば13年前、萩園のとある木造長屋に、現市議会議員の和田清さんと共に訪れた夏の日が、すべての始まりだったような気がします。

「ここにアルバイトの学生を集めて、夏休みに行き場のない障がいのある子どもと遊んでもらおう。そして、ひとときも休むことのできないお母さんに、少しでもホッとできる時間を持ってもらおう…。」

1998年当時、茅ヶ崎・寒川には、障がいのある子どもを預かるサービスがまったくありませんでした。そこで、同じ親の会メンバーである加藤さん（現トムトム総務部長）他、何人かの親御さんと一緒に、築数十年の取り壊し直前の長屋を無償でお借りし、キャーキャー言いながら（虫がたくさんいたので…!?) きれいに掃除をし、延べ3週間、30人ほどのお子さんを同人数のアルバイトやボランティアの学生さんにみてもらう「障がい児サマースクール」を行いました。結果はもちろん大盛況で、「来年もまたお願いします!」と利用されたご家庭からは切実な声が寄せられました。

そして、その勢いに押されるようにして、翌1月に茅ヶ崎市内で「障がい児支援セミナー」が開催され、親たちが中心となった実行委員会が立ち上がり、1999年7月に「パーソナルサービスセンタートムトム」は産声を上げたのです。

開所当時は常勤職員2名体制で、利用者は20名にも満たず、職員の給料が払えるかどうか毎月の委員会で皆う〜ん…と頭を抱えていたものですが、それがいまや常勤職員20名、利用者は200人を超える大所帯に成長しました。

「トムトムは時代を先取りしている」と、あの当時、和田さんは言っていましたが、まったくその通りで、現在地域にはいたるところに地域福祉サービスの事業所ができています。養護学校下校時には、日中一時支援事業所の送迎車がズラッと並んで壮観ですし、街を歩けばホルダーを下げたヘルパーさんとリュックを背負った障がい児のペアをあちこちで見かけます。一民間サービスだった事業は、国県そして市町村の制度となり、「年会費が15万円」だったトムトムは、「利用者負担が1割」のサービスを提供できるようになりました。子どもを預けることができない暮らしが、ほんの数年前までは当たり前だったことが、今では信じられないようです。

トムトムは、今、多くの職員の皆さんの並々ならぬご苦勞をもって、運営を続けています。しかし、そのトムトムは、今から12年前に、私たち障がい児を持つ親が、万感の思いを込めて、祈るような気持ちで導火線に火をつけた事業所でもあります。

その火を絶やしてはならない、と思います。

あのサマースクールが、あの時どんな意味を持つようになるのか、当時の私にはわかりませんでした。しかし、ただ子どもへの思いだけでがむしゃらに突っ走ったあの時の当事者のひとりだったことは、私の人生で一番意味のある出来事となりました。トムトムが他の事業所と違うところは、ただひとつ、「親と共に歩む」事業所だということです。たとえ制度がついても、その基本的な考え方は変わらないと思います。採算がとれない事業であっても、重い障がいのお子さんであっても、「必要とされる」サービスをトムトムが行ってきたのは、親の思いをトムトムがしっかりと背負ってきたからだと思います。今現在、新しくトムトムで働いている職員の皆さん、そして利用されている親御さんには、このことを是非ともお伝えしたいのです。そして、時間制勤務や利用契約といった、割り切った関係以上の価値を、トムトムに感じてほしいのです。

トムトムが生まれた時、小学校に入った私の息子が、この春、養護学校高等部を卒業します。

ヘルパーさんに延べ12年間おつきあいいただいた息子が得たことは、「自分のところに来た『ヘルパー』という人は、自分を支援するために来ているんだ」というゆるぎない安心感です。このことが、息子の健やかな成長にどれほどの貢献をしているか、言葉には言い表せません。

地域にトムトムがあってよかった。自分がそこに係わることができて幸せだった。そう、思っています。そしてこれからは、自分なりの別の形でトムトムをずっと見守っていきたいと思います。長い間、本当にありがとうございました。



研修報告

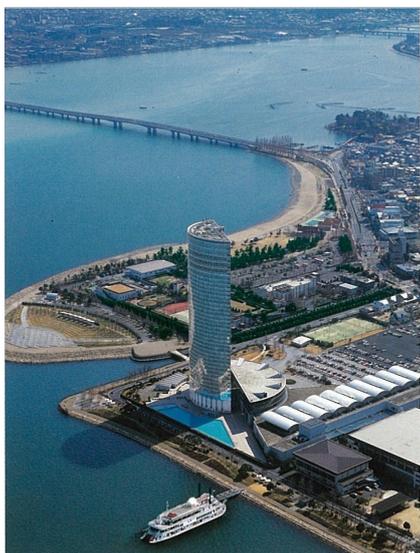
2011年2月4日から2泊3日で、滋賀県大津市で毎年開催されるアメニティフォーラムへ今年も2名の職員が参加いたしました。

～ アメニティフォーラム15in滋賀 ～

えぼっくハウス 関口 智

2011年2月4日～6日に大津プリンスホテルにて開催され、今年で15回目を迎えたフォーラムに、初めて参加させて頂きました。到着後すぐに、会場の広さに圧倒されましたが、同時に、これだけの方たちが参加する意味と意義を、考えさせられました。福祉の仕事に就いて、まだ6年ポッキリですがこういった経験をさせて頂けたことにとっても感謝しております。

今年のテーマは『障害のある人の暮らしを豊かにしよう！～ねじれ国会だから、できることがある～』でした。昨年12月の国会で、障害者自立支援法の改正案が可決され、将来的に可決されていくであろう「障害者総合福祉法(仮称)」までのつなぎ法案が、順次施行されていきます。今



後の障がい者福祉に、多大な影響をあたえるであろう「障害者総合福祉法(仮称)」は、ご存じのとおり、現在、政府のなかに障がい者制度改革推進本部がおかれ、障がい者制度改革推進会議にて議論がなされています。当事者も参加しており、差別の禁止や、虐待の防止等も含め、真剣に議論されています。

講演の内容は、医療、法律、地域福祉事例、相談援助、各障がいごとの支援の在り方等、多岐にわたる内容で、すべてを聴いてみたいぐらいと思うほどでした。また、各支援事業所の構えるブースに興味深々になりました。えぽっくハウスでは、現在、エコ植木鉢を作っておりますが、その販売と合わせてトムトムの宣伝が出来れば…とも感じました。来年はブース出展再開しましょう！！

ファイナルトークでは、『プラチナプラン』と題され、障がい者版ゴールドプランの策定をめざす内容の講演がありました。地域での支援体制の確立、ノーマライゼーションは子どもから、地方主権の在り方、財源確保の在り方等、障がいのある人のよりよい暮らしを心から願う内容でした。

研修で学んだことを、もちろんのことですが、まず第一線(現場での支援)で活かしていきたいと思えます。トムトムの10周年の歴史のなかの一つ、生活介護事業の初年度を経験させて頂き、こちらもとても感謝しております。新たに作られていく法律の進行と同じタイミングで、今後トムトムの発展に、少しでも貢献していきたいと思っています。



アメニティフォーラム研修報告

いんいん 岩崎 秀俊

去る、2011年2月4日～6日にかけて滋賀県大津市にある大津プリンスホテルにて、“アメニティフォーラム 15in滋賀”が開催され、法人研修の一環として参加してきました。

何ともまあ1600人もの人たちが参加したとの事にして、全国の福祉の現場で働いている人達が一団に介する場面なんて滅多にないでしょうから、これだけでも貴重な体験なのかなーって思わずにはいられませんでした。

ここに参加するまでは全く知らなかったのですが、滋賀県は日本で最初の福祉のケアマネジメント発祥の地とも言われているそうです。

初めて聞いて思わずうなずいてしまいました…前を見渡すとうなずく人がいない事に…まだまだ勉強不足だと否めません(泣)

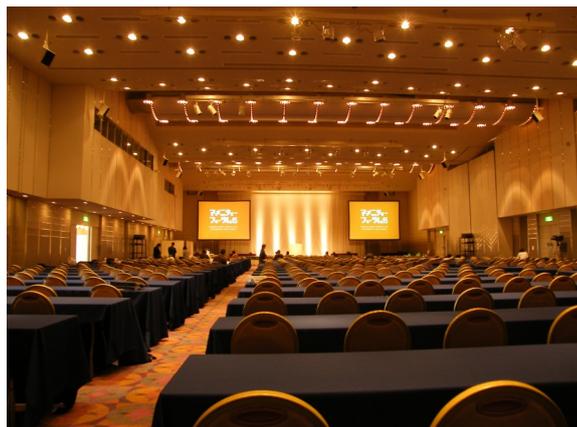
ちなみにここを読んでうなずいてしまった方…一緒に頑張りましょう(笑)

さて、内容としましては、『障がいのある人の暮らしを豊かにしよう』というテーマに沿いつつ、国会議員(障害者制度改革推進会議の役員も含む)や全国区の福祉事業関係者、大学教授や医療関係者、様々な職種の人達が、障がい福祉の制度や人権問題、障がい特性や各専門職の立場から見た支援の在り方、ケアする側の精神衛生面について…などこの他にも様々な内容を取り上げ、スピーチやディスカッションを繰り広げていました。

村木厚子さん(内閣府政策統括官)は、拘置所での生活を、赤裸々に話しつつ、つらい拘置所の生活の中でも、所員は要望(手錠がかなりキツく緩めてほしいと頼んだそうです。最初は相手にもしてくれないと思っていたそうですが、親切に対応してくれたそうです。)を聞いてくれた事に、改めて人権が守られていることを実感し、自分の無実を信じて待っていてくれる人がいることが、何よりも支えになったと言っていました。

少し余談ですが、管直人夫人や木村祐一さん(お笑い芸人)なんて人もゲスト参加していました。(夫人はあいさつのみでした)

こういう研修に参加してみると、たかだか2年程度の経験しかありませんが、悲しいほどに今の自分が支援員としてどの程度成長できているのかがよく分かってしまいます…。



もちろん十分についていけない内容もありましたが…逆に胸に響いてこない内容もしかり(これは余計ですかね)北海道の某所では31才の若さで7カ所の福祉事業所の代表を務めている男性や40前半で全国区の諸団体幹部をこなしている男性がいたり、自分よりもずっと前を進んでいる支援員がいる事に、未熟さを痛感させられました。…と同時にとてもいい刺激にもなりました。

この仕事を続けていくとするなら、大きく成長していつかあちら側に立ってみたいな…なんて言うと『百年はえーよ!!』とK部長に言われそうなのでこの辺にしておきます。

最後にこの研修を通して、各講師の方がスピーチした中で、印象に残った言葉(とりあえず勉強してきた一面も発揮したいので)を一部ではありますが記載して終わりにさせていただきます。

短絡的すぎて伝わりづらいかもしれませんが…率直に捉えてもらえればと思います。

- 人権という立場からみた福祉とは…定型発達と呼ばれる人と変わらない生活を送ることが目的である。
- 自立支援とは…自己決定に基づいて、本人らしい生き方を選択すること。
- 障がいとは理解と支援を必要とした個性である。
- 障がいとして捉えるのではなく個性として捉える。(障がいは個性にすぎない。)
- 相談支援とは本人の生きづらさに寄り添うこと。
- 障がい者とは支えられたり、守られるべき存在ではない。生きづらさを理解しているからこそ、支える側や守る側にも立つ必要がある。
- 自分自身(支援者)を受け入れられるように、矛盾してもよいという心構えも、時には必要。

自分の中では、今回の研修を通して感じた事は、ぼくら福祉関係者や地域の方々が、障がいに対して理解を深めていくだけでも、障がいのある方々が豊かにかつ、ありのままの姿でも生活できるような環境が少しずつだったとしても整っていくのかな…とそう感じました。

ささやかながらも、そのお手伝いができるようにこれからも頑張っていきたいと思います。



一応
ウサギです

トムトム

寒い冬も 元気いっぱい!!

ぶんぶん



きくおき

前回トムトム通信を発行してから、あっという間に4カ月が過ぎ、もう卒業のシーズンになりました。各支部それぞれ、皆がどのように過ごしたのか…少し覗いてみましょう。



いわさき

ゴロゴロクラブ



ひなまつり



クリスマス会



あいあいクラブ

クリスマス&豆まき



足湯



公園へ

えぽっくハウス

成人のお祝い



クリスマス会



ゆうゆうクラブ

クリスマス会



リレートーク



平塚市在住

嘉山 淳子

これからも・・・

我が家とトムトムさんとのお付き合いは息子が中学部の頃、平塚市のタイムケア事業で「ゆうゆうクラブ」が始まったときからのことです。今春、息子は養護学校高等部を卒業し、4月より「えぼっくハウス」でお世話になることになりました。と、いうわけで、これからは長〜いお付き合いになりそう・・・皆様よろしくお願いたします！

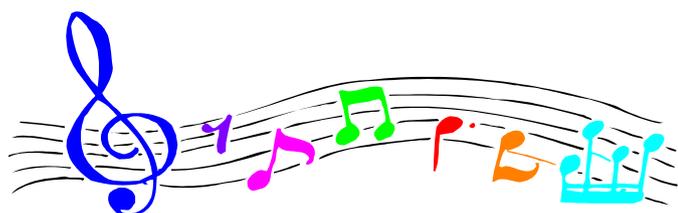
今年は我が家にとって息子の卒業という区切りの年なので、そんな思いで18年間で振り返ってみて、まずはひと言・・・「いや〜、障害児を育てるのって、ホントウに大変なんですネ！」（ある年代以上の方はご存知、昔活躍していた映画評論家さんのイメージで！）細かいことは書かなくてもこれをお読みになる方は当然ご存知ですが、（仕事をしながらの）子育ては格闘のごとし。でも、「面倒をみる」のは大変だけど「障害児と一緒に」の暮らしは、そう悪いことばかりでもない・・・と思いませんか？

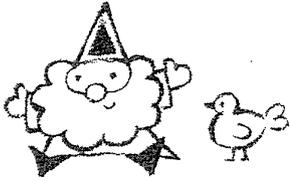
身体のことや社会の仕組みのこと。障害を持つ子がいることで、実際に勉強になることも沢山。受験や競争とは無縁ののんびりした暮らし。何より、息子がいなければ出会わなかったであろう、大勢のお子さん達、沢山の心優しい人達に出会えました。そんな数々の出会いによって、親である私たちはずいぶん育てられたと思います。

脳性マヒという障害を持ち、不安定で神経質な赤ちゃんだった息子も、今や18歳！目を輝かせて外での活動に夢中です。彼もまた、人との関わりに育てられたんですね。

私たち夫婦は音楽家で、中高年の人たちと歌を楽しむ集いを月一回催していますが、60〜80代という、人生の荒波をいくつも超えてこられた方達が、そんな集まりをとっても楽しみに、生きがいのように感じて下さいます。「音楽」の力もさることながら、損得を超えたおおらかな、人同士の「関わり」は、老若男女・障害の有無にかかわらず、人が生きていくのに必要なんだな〜と思わずにはられません。メールやネットの交信だけでなく、身近に人がいて、表情・声・息遣いを感じられるのがいいんですネ。

この春からは、「えぼっくハウス」が息子の生活の舞台です。そこでの新しい出会い、関わりが、彼のこれからの人生をかたちづくってくれる・・・ちょっとドキドキ、でも楽しみです。人と出会い、仲間と過ごして「楽しかった！」と思えれば、明日もきっと元気だから・・・！





リレートーク

平塚市在住

トムトムさんを利用して

真野 昭子

うちの息子をトムトムさんをお願いしてから1年3ヶ月が経ちました。息子は平塚市の小学校の支援級に通っており、今年の4月から6年生になります。

いつか自分に急な事態が起きた時のために、こどもをお願いできる人を探しておかなければ。以前からそう考えてはいたのですが、サービスではなく、移動支援をお願いするのは二の足を踏んでいました。

ところが昨年、障害者スイミングの会の役員を引き受けるにあたって、どなたか人をお願いする必要に迫られました。休日、しかも男の子なので着替えの関係で「できれば男性のヘルパーさんを」と希望したところ、どこも人手不足ということで、断られてしまいました。

困っていた私に「今は無理ですが、今後面談の予定があるのでその方が決まればご連絡します。」トムトムさんの方がそう声をかけてくださり、以後ずっとお世話になっています。

「みつからなければ、女性でもかまいませんので」そうお願いしていたのですが、極力男性のヘルパーさんをつけてくださり、女性のヘルパーさんになった折も、着替えに関しては、他の方についている男性ヘルパーさんが目を配ってくださったりと、細かな配慮をいただいています。

息子は今、親と様々なところへ外出しておりますが、「学校を卒業後も、作業所と家との往復のみという生活ではなく、できるだけ社会の中で行けるところを増やしてあげたい。」そう考えております。

その私の夢を実現する手助けを、トムトムさんをお願いできたらと思っています。これからもどうぞよろしく願いいたします。



編集後記

「部長」・・・そう呼ばれるようになってから、数年経ちました。未だにその言葉になじめない私があります。元々私は手芸や園芸、パソコンでホームページや広報紙など人間相手ではなくて物相手にコツコツ作り上げる作業の方が性に合ってます。なので仕事場で部長面して部下に指示を出し、時には叱りつけたり。責任を任されてる立場ゆえに会議ではいつも司会をしなければならなかったり。この世で一番人前でしゃべることが苦手なこの私です。もともと私は障がいをもつ子どもの親で、伊藤理事長や前理事の上杉さんとともにトムトムを立ち上げました。親でもあり職員でもある中立な立場は、いつでもやじろべえのように気持ちはグラグラで両方の立場をバランスよく保つことは非常にキツイ。**なので**。このストレスを軽減するには少なくとも自分の得意分野である広報作りやホームページ作りは楽しく仕事できるひとときがありました。NPO法人ですから、障がい福祉にかかわる問題点をトムトムの視点から訴えることは重要と考えています。で、トムトムも職員の数が増えてきました。組織が大きくなるということは誰かが上にたって束ねていかなければいけない訳で、総務部長としてやるべき仕事が増大になってきました。1年半前から広報委員会を立ち上げたのですが、担当の職員は現場をこなしながら時には残業して集まる日もありました。最初の頃、現場が忙しくてそんなことやってられないとブーイングもありました。が、これもれっきとした仕事でトムトムの中に暇な職員はいない。みんなで協力しあってほしいことを伝えてきました。そんな甲斐があって職員達は学習し、手順を覚えて成長してくれました。そして今回のこの広報26号は、私以外の職員が構成しました。今年度は卒業生が50名近くにもなり、広報だけでは収まらず、別冊番外編もあります。この仕事を別の職員に託すことはできないと欲していたことが、あっさりとできてしまいました。

私も卒業だと感じましたよ。・・・広報。（泣笑）

広報リーダー：加藤

広報委員：岩崎・鈴木・眞壁・細野



ご支援ありがとうございます！

2010年12月～2011年2月現在

◆個人◆ 2名の方より寄附金をいただきました。

トム通信25号で願をしておりました車をご寄付いただきました。現在ゴロゴロクラブの送迎で使用させていただいており、大活躍しています。これからも大切にに使わせて頂きます。



賛助会員を募集中です！

【個人・団体共に】年間1口：3,000円(何口でも結構です)

【郵便口座番号】00290-3-47042

【口座名義】特定非営利活動法人パーソナルサービスセンタートムトム

特定非営利活動法人

パーソナルサービスセンタートムトム

神奈川県茅ヶ崎市萩園1602

電話 0463-37-2012

FAX 0463-37-2013

Email: houjin@npo-tomtom.com



ホームページもご覧ください。
<http://www.npo-tomtom.com/>